

## 五感で感じる新しいグリーンウッドワーク講座の実践

森と木のクリエイター科 木工専攻 井上 真利

### 1. 背景

この研究は、生木を使うグリーンウッドワークを「五感で感じてもらうこと」に焦点をあてた研究である。(グリーンウッドワークとは、乾燥していない生木を人力の道具を使って加工する技術のことである。)

忙しい生活には、「癒し」や「心地良さ」、「楽しさ」が必要だ。そんな時、出会ったのがグリーンウッドワークだった。グリーンウッドワークは視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚での「五感」でものづくりができる。視覚では樹皮や木肌の色、木目の模様。聴覚では削る音や割れる音。触覚では伐ったばかりのみずみずしい生木の手触りや削り心地。味覚では食べた時に感じる味。(本研究での味覚は普段の感じる味覚と自分でつくったモノで食べる味の違いとする。)嗅覚では木の香り。などを感じることができる。

五感に焦点をあてたグリーンウッドワークの講座を本テーマとして考察することにした。

### 2. 目的

本研究では、グリーンウッドワークの講座で特に「五感で感じてもらうこと」に焦点をあてることで、参加者に「癒し」や「心地良さ」を与え、普通の講座とは違うものづくりの「楽しさ」を提供することを目的とする。

### 3. 研究内容

森林文化アカデミーと、卒業生等で作る団体グリーンウッドワーク・ラボが共同運営している場を借りて、五感に焦点を当てた3種類の講座を企画実践することとした。

企画にあたり、準備として「さまざまな樹木の特徴リストの製作」と「他のグリーンウッドワーク指導者による講座の体験」を行った。

#### 3-1. 講座の実践

ケース1：木の特徴を感じながらデザートスプーンをつくる

**目的**：木の特徴を説明しながら香りや樹皮、木肌の色の違い、削り心地など五感を感じてもらう。全く木を触ったことがない人に生木を知ってもらうことを目的とする。

▼場所：ぎふ木遊館 ▼対象者：高校生以上

▼時間：3時間 ▼使用樹種：オニグルミ・ヒトツバタゴ・サイカチ・ヤマザクラ (合計4回実施)

**内容**3時間かけてデザートスプーンを作りながら、ある樹種の香りや樹皮、木肌の色の違い、削り心地などを実際に見て、触って、感じてもらった。樹種は、一般の人にもなじみのあるものとしてオニグルミ、ヤマザクラ、珍しく聞き慣れないものとしてヒトツバタゴ、サイカチを選び、合計4回実施した。サイカチを使用した講座では、大きな豆やトゲを実際に見せ、触ってもらうことで木に興味を持ってもらえるように工夫した。生木の触った時のみずみずしさや削る音、木の香りなどを参加者の方に感じてもらうように作業ごとに声かけをした。

**考察**参加者の方から「五感で感じるのが心地良い」「木ってこういうことなんだ」「スプーンをつくるのが目的ではない、過程が楽しい」などの声があったことから、五感で木を感じることは心地良い、過程が「楽しい」と感じてもらうことができた。また、木に実際に触れることで感覚的な「木の良さ」を感じてもらえた。一方で、リピーターの方から「複数の樹種を同時に比べた方が、それぞれの違いが分かるのでは」との声をいただいた。



写真1 生木を見て、触って、感じている様子

ケース2：3種類の木を削り比べながらデザートスプーンをつくる

**目的**：ケース1の参加者からの意見を参考に、3種類の木を削り比べながら木の特徴の違いを伝える。木によってどんな違いがあるのか感じながらつくったスプーンでデザートを食べる。全く木に触ったことがない人に木の違いやバリエーションを知ってもらうことを目的とする。

▼場所：ぎふ木遊館 ▼対象者：高校生以上

▼時間：3時間 ▼使用樹種：ソメイヨシノ・ウワミズザクラ・カツラ

**内容**3種類の木を比較しながら香りや樹皮、木肌の

色の違い、削り心地などを実際に見て、触って、木によって違いがあることを感じてもらった。最後には作ったスプーンでデザートを食べてもらい、自分で作ったモノへの特別感を味わってもらった。木によって違いがあることをより感じてもらうため、同じサクラの仲間であるソメイヨシノ・ウワミズザクラ、比較的手に入りやすいコナラを選び、実施した。3種類の木を比較することでどんな印象を受けたのか、どんな違いを感じたのか参加者の方と意見交換を交えながら実施した。

**考察**参加者から「同じサクラでも違いがあるのにびっくりした」「立木の時のイメージと実際に触ってみたときのイメージが違って面白かった」との声があった。ケース1とは違い比較対象があることで、同じサクラの木でも香りや樹皮、木肌の色の違いがあること、いつも見ている木のイメージと、実際に触れてみることで感じ方が違うことを知ってもらえ、より「木の良さ」を感じてもらうことができた。また、「自分で作ったスプーンで食べるのは格別美味しい」との声もあった。市販のモノよりも自分で作ったモノを使うことで特別感や愛着を感じてもらえた。

### ケース3：5種類の木を削り比べながら鍋敷きをつくる

**目的**：より五感を感じてもらうために木の名前は伝えずに5種類の木が何の木なのか想像しながら進める。木について事前に学習し、知識のある子どもたちに木の違いやバリエーションを知ってもらうことを目的とする。

▼場所：高山市清見中学校 ▼対象者：中学1年生

▼所要時間：5時間 ▼使用樹種：スギ・ヒノキ・クリ・ホオノキ・サクラ

**内容**：高山市の清見中学校では中学1年生の総合の授業の中で半年間かけて地元の伐採、製材、加工について学習してきた。環境汚染、防災、地球温暖化などの課題がある中、「木は生活に欠かせないもの」であることを子どもたちは学んだ。「木の素晴らしさ」を感じてもらうため、実際に木に触れ、グリーンウッドワークを体験した。地元で取れる針葉樹のスギ・ヒノキと広葉樹のクリ・ホオノキ・サクラの5種類を使用した。24名の子どもたちに4名ずつ6グループに分かれて実施し、5種類の木の特徴や名前を伝えず講座を進めた。より五感を感じられるよう、この木はどんな特徴があるのかどんな違いがあるのかと「楽しく」進めることに重点を置いた。「切る」「割る」「削る」「におい」「色」「木目」「手触り」でそれぞれの樹木の違いを言葉で表現できるようなシートを作成し準備した。

**考察**子どもたちの木の最初のイメージは「ほっこりする」「きれい」「あたたかい」など漠然としたイメージだった。しかし体験後には「木を感じた」「木によってこんなに違いがあるんだ!」「木には個性があって削った感じや切った感じが違って面白」「木と触れ合うのが楽しかった」などの声があった。木に対するイメージがより具体的になった。









切る  やれい	色  おしろい、白 外側白
割る  めづやめづ ふいふい	木目  10以上
削る  めづめづ	手触り  ゴリゴリ
におい  酢飯のにおい あじい	その他  まっさら サクラの木 めづやめづ

写真2 生徒が記入したシート

## 4. 評価

ケース1のリピーターである参加者の柴山佳江さん、ケース1・2を実施したぎふ木遊館・技術主査の長沼慶拓さん、ケース3を実施した清見中学校の田村亮先生の3名より本研究の評価をいただいた。うち2名の声を紹介する。

### 柴山佳江さん

五感で感じることで「木ってこういうことなんだ」と感覚的に感じるすることができた。スプーンを作ることが目的ではなく、木の香りを感じたり、木目の美しさや割った時のみずみずしさ、削る音などが、衝撃的につくる過程、全てが新鮮で楽しかった。「今日は何の木かな?」と楽しみにしていた。

### 田村亮先生

子どもたちが「木を感じた!」そういう感覚を持ってもらったこと、表現で言ってもらえたことが良かった。これまでの見学、体験を通じて、「木は生活に欠かせない」という知識と感覚的な「木の素晴らしさ」の「両輪」が揃った。

## 5. まとめ

講座の考察や評価より、五感で感じることに焦点をあてた新しいグリーンウッドワーク講座は、木の香りや樹皮、木肌の色の違い、削り心地など実際に見て、触って「癒し」や「心地良さ」を感じてもらい、モノをつくる過程を「楽しい」と感じてもらうことができるとわかった。

## 6. 今後について

卒業後はグリーンウッドワーク協会に所属しながら引き続き講座を行っていき、ものづくりをする過程の「楽しさ」を伝えていく。今後もグリーンウッドワークの更なる可能性を追求していきたい。